



シリーズ 町内探訪

財田親水公園と河川遊歩道

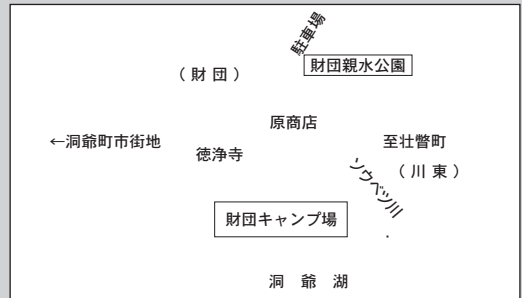
ソウベツ川沿いを歩く河川遊歩道の終点にあり、小川の流れる緑豊かな公園です。田園風景が広がるこの地区は、ブランド化されている財田米の産地です。

春先には、田んぼの代かき作業で掘り起こされた土の中から出てくるミミズや虫を狙い、多くの鳥たちが集まり、バードウォッチングに最適です。天気の良い日には、田んぼに張られた水が、やわらかい太陽の日差しに乱反射され、きらきら輝く光景は、春の匂いそのものです。

夏は、小川のせせらぎが、清涼感を際立たせ、秋には、黄金の色に染まった大地が眼前に広がり、ソウベツ川を産卵のために遡上するサクラマスの観察は圧巻です。

夕日が見える渚公園から親水公園までは、遊歩道が整備されているので、親子でお弁当を手に散歩するのも一見です。

日常の喧騒を忘れ、ゆったりのんびりするには最適です。



おもてなしで花壇整備

芸術館友の会 パンジー植樹

冬 期間閉館していた洞爺湖芸術館が、4月1日から開館し、本格的なシーズンを迎え、来館者へのおもてなしとして、洞爺湖芸術館友の会（佐藤安弘会長）の皆さんが、5月9日と27日同館前の花壇整備に汗を流しました。
5月9日は、8名の参加で、40株のパンジーを植樹し、同27日には、12名が参加して、パンジー1、350株を植込みました。
参加者は「お迎えする準備は整ったので、多くの人が訪れて欲しい」と今シーズンの入込みに期待していました。



花壇整備に精を出す友の会の皆さん

ゴールデンウィークにボランティア

今年も植栽活動に 250人参加

ゴールデンウィークの恒例行事になっっている「MOVE洞爺湖2010」（洞爺湖温泉誕生100年記念事業委員会、FM北海道主催）が、4月28、29日開かれ、洞爺湖畔の花の植栽活動に精を出しました。当日は札幌を中心に若者や家族連れが約250人参加。
わかさいも本舗の道路側と湖畔側や噴火記念公園内にある花壇など、温泉街6カ所にパンジー1万株を約2時間かけて植えました。
昼食後には、ホテル宿泊券や地場産品のセットなどが当たる大ビンゴ大会が行われ、大いに盛り上がりました。



植栽活動に取り組むボランティアの皆さん